

# 茅十一回 明月之會

平成二十二年五月四日(月・祝)三時始  
於・觀世能樂堂

東京都渋谷区松濤二一十六一四  
☎〇三(三四六九)五三四一

仕舞 藤戸 梅若万三郎

狂言 入間川 野村 萬齋

能 定家 加藤 真悟

# 第十一回 加藤眞悟明之会

解説 表きよし (国士館大学教授)

(二時二十分頃)

仕舞

## 花月

加藤慎一郎

地謡

梅若 久紀  
長谷川 晴彦  
加藤 眞悟  
梅若 泰志

かげつ：離ればなれになった花月という少年と出家した父親が京都清水寺で再会する、芸尽くしの能。仕舞では最後の部分(キリ)を舞う。

独吟

## 四季

梅若万佐晴

しき：雨露霜雪のうち四季折々の雪の徳を独り謡う。

仕舞

## 藤戸

梅若万三郎

地謡

青木 健一  
伊藤 嘉章  
青木 一郎  
八田 達弥

ふじと：源氏の武将佐々木盛綱に浅瀬を教え、たことで殺された漁夫が怨霊となって現れ、海に沈められ殺された時の苦痛を述べ、襲いかかるうとするが、弔いの功德を得て成仏する様子を舞う。

平成二十一年五月四日(月・祝) 二時始  
於・観 世能楽堂

狂言

## 入間川

野村 萬斎  
竹山 悠樹  
高野 和憲

休憩 二十分

能

## 定家

加藤 眞悟  
工藤 和哉  
梅村 昌功  
則久 英志

野村万之介  
松田 弘之  
幸 信吾  
柿原 弘和

笛  
小鼓  
大鼓

梅若 紀長  
梅若万三郎  
中村 裕

地謡

古室 知也 八田 達弥  
梅若 泰志 西村 高夫  
長谷川晴彦 清水 寛二  
遠田 修 伊藤 嘉章

主催 加藤眞悟明之会  
(終了予定五時半頃)

## 入間川

東国の大名が太郎冠者を連れ、京都から帰郷途上、武蔵ノ国で大きな川にでる。大名が対岸の男に尋ねると、これは入間川で浅瀬は上だと教えらる。大名は「入間の逆さ言葉」と一人合点し、かえって深い処をわたり、ずぶ濡れになる。怒って男を成敗しようとする大名と、それを逆さ言葉で返す男とのやりとりを大名は喜び、太刀や小袖を与えるが、それが逆さ言葉になると...

## 定家

旅の僧の一行が千本松原あたりで京の秋を愛でていると時雨が降り始め、目についた東屋で雨宿りをする。そこへ里の女(前シテ)が現れ、ここが『時雨の亭(しぐれのちん)』という藤原定家の建てたものと定家の歌『偽りの、なき世なりけり 神無月、誰がまことより しぐれ初めけん』を引いて語る。また、一行を式子内親王の墓に案内し、定家と式子内親王の忍ぶ恋と内親王の死後も定家の妄執が葛葛となって墓に絡みつき、執念にまどわりつかれたいきさつと苦悩を語る。ここでは「玉の緒よ 絶えなば絶えね ながらへば 忍ぶる事の 弱りもぞする」という式子内親王の歌を始め「あわれ知れ 霜より霜に 朽ち果てて 世々に古りぬる 山藍の袖」(定家)などの和歌が織り込まれている。ついには自分が式子内親王であることを明かし、救いを求めて石塔の影に消える。

(中入り)

僧たちの弔いの読経に、内親王(後シテ)が塚から姿を現す。法華経の功德によって妄執の葛葛が解かれたことを感謝し、舞を舞う。が、ふとわが身のやつれた姿を恥じて墓に戻ると、墓石に再び葛葛が絡みつき墓石の形もわからないほど覆い隠してしまふ。

### 【入場料】

指定席S 九,〇〇〇円  
指定席A 七,〇〇〇円  
指定席B 五,〇〇〇円  
自由席 四,〇〇〇円  
自由席 三,〇〇〇円

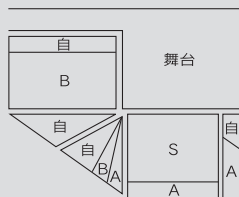
### 【明友の会会員募集】

入会金 一,〇〇〇円  
年会費 一,〇〇〇円

特典  
・明之会公演の入場料一割引(一会員 三席まで)  
・会報や演能勉強会のお知らせなどをお届けします

### 【お問い合わせ・お申し込み】

加藤眞悟 ☎045(481)8704  
ホームページ <http://singo.from.tv>  
携帯メール [singo-55-kato@ezweb.ne.jp](mailto:singo-55-kato@ezweb.ne.jp)



日時 ■平成21年5月7・21日、6月4・25日、7月2日(各木曜)の午後2時~3時30分  
会場 ■本行寺(JR日暮里駅西口1分)  
講師 ■加藤眞悟  
受講料 ■10,000円(5回)、教材費 2,100円  
●ご予約・お問い合わせ ☎045-481-8704 加藤眞悟

### 能楽体験講座

能の話、謡と舞の基本の型の体験をします  
『羽衣』を謡ってみよう

能を笑ひる  
愉しみ